総合教育臨床センターだより

2024年 2月 第11号

学びサポート室からご挨拶

学びサポート室とは・・・

学びサポート室は、特別支援教育に携わる教職員及び関連する支援者の実践を共にサポートします！！（現在、個別の相談については附属学校園のみへの対応となります）

鈴木英太（総合教育臨床センター　学びサポート室講師）
公認心理師，特別支援教育士，臨床発達心理士

学びサポート室の鈴木英太と申します。昨年３月に着任してから、あっという間に約一年を迎えようとしています。この間、附属学校園を含む数多くの学校、先生方、そして保護者の皆様からの相談や支援業務に携わらせていただきました。その中で目にしたのは、先生方の教育への献身的な情熱と、子どもたちの成長への無限の可能性です。

学校現場に足を運び、多様な子どもたちと触れ合う中で、現場の先生方と一緒に、前向きに支援を考えていくことが大切だと考えています。前職は中学校教員でしたので、その経験を生かし、現場の実態を理解した支援の構築が私の目標です。先生方とチームになって支援体制を作っていきたいと考えています。「あの子への支援、どうしたら良いかな？」など、悩まれることなどがあれば気軽に相談してください。

特別支援教育の質を高め、子どもたちが活き活きと学ぶ場を提供することを目指し、努力を重ねていきたいと考えています。

教育の未来に向けて、心を一つにして歩みを進めましょう！

榊原久直（総合教育臨床センター　学びサポート室講師）
公認心理師，臨床心理士

学びサポート室の榊原久直と申します。これまで子どものカウンセリングや子育て相談・発達相談の心理士をしてきました。京都に来て早１年、慣れないことも多く戸惑いながらの日々でしたが、大切な人の事を想う子ども・保護者・支援者たちの願いとそれゆえ苦悩は地域も年齢も変わりがないのだということを強く再確認する１年でもありました。大切だから守ってあげたい、でも大切だから一緒に居て苦しいし、大切なのにわかってあげられない・わかってくれないのはもっと辛い…そんな特別な二者関係（愛着関係）の愛しくも切ないすれ違いを少しでも解きほぐせたらと願いながら毎日走り回っています。

子どもにとっても、保護者にとっても，そして先生や他の支援者にとっても、安心できる人間関係なしにはこころやからだの成長や回復はできません。相手の多様な振る舞いに込められた想いと、そして同時に自分自身の中にあるかもしれない様々な想いのどちらも大切にできるような、そんな関係性の築き方を一緒に模索していけたらと願っています。

気になる“大切な人”がいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にご相談ください！

おしらせ「学びサポート室」シンポジウムを開催します

学びの多様性って何だろう？
～不登校への新たな対応を考える～

日時：２０２４年３月２日（土）　１３：００～１５：００
場所：京都教育大学藤森キャンパス　共通講義棟大講義室２
対象：学校教員、教育委員会関係者、
　　教員養成系大学・学部関係者、学生など

お申込み　QR コード

学びサポート室・スタッフ
室長　教授：小谷裕実（発達障害学科）
学びサポート室　担当講師：榊原久直、鈴木英太

◆特別支援教育臨床実践拠点の取り組みについて

2023年度京都教育大学特別支援教育セミナーを開催しました

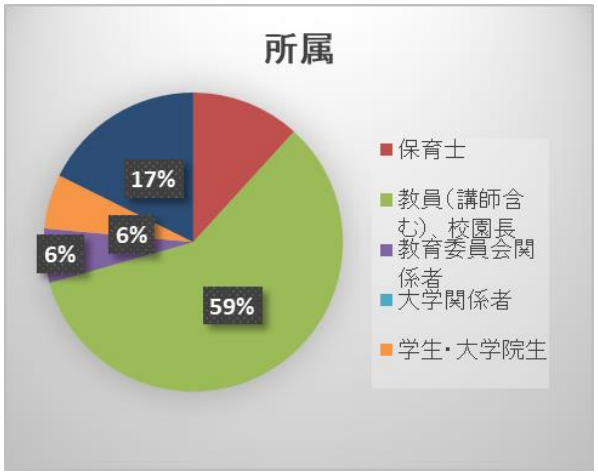
特別支援教育臨床実践拠点では、今年度も２回にわたり対面形式による特別支援教育セミナーを開催しました。

第1回　特別支援教育セミナーについて

9 月 30 日（土）の第 1 回のセミナーでは、飯島　典子氏（宮城教育大学　准教授）に「『気になる』子ども（幼児）を育む遊びと支援」という演題でご講義いただきました。

・参加者について

京都府・市、近隣県から 18 名が受講されました。



（人）

所属	
保育士	2
教員（講師含む）、校園長	10
教育委員会関係者	1
大学関係者	0
学生・大学院生	1
その他	3

表１　アンケート回答者の所属　(n=17)

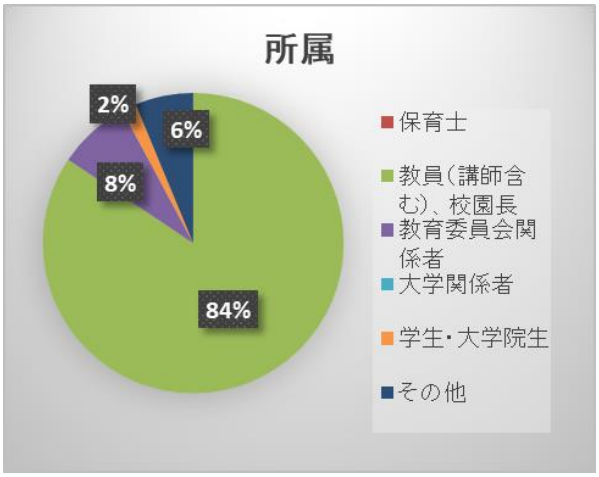
◆飯島氏には、子どもの「気になる行動（困った行動）」を「どうしてその行動をするのか？」という視点で、支援者の困り感を、子どもを理解するためのスタートとすることや、幼児が遊びの中でできる具体的な支援策等を動画も交えて、分かりやすくご教授いただきました。参加された方からは、「子どもの姿がうかび、自園や自身をふり返る時間になり反省もたのしさも感じました。何のためにしているのか、ねらい願いを明確に、子どもにとってどうなのか考えて保育したいと思います。」等、多数のご意見やご感想をいただきました。

第2回　特別支援教育セミナーについて

12 月 16 日（土）の第２回のセミナーでは、川上　康則氏（杉並区済美養護学校　教諭）に「教室マルトリートメントを防ぐために私たちができること」という演題でご講義いただきました。

・参加者について

京都府・市、近隣県から 68 名が受講されました。



（人）

所属	
保育士	0
教員（講師含む）、校園長	54
教育委員会関係者	5
大学関係者	0
学生・大学院生	1
その他	4
無回答	1

表 2　アンケート回答者の所属　(n=65)

◆川上氏には、ご自身の教員という立場から、気づかないうちにはまり込んでしまう「教室マルトリートメント（教室における不適切な指導）」について詳しく解説いただきました。「自分自身のことを見直すよいきっかけになりました。知らず知らずの間に不適切な関わりをしていて、自分自身、そして周りの教員も焦りを感じてしまっているなと思いました。熱心な無理解者とならないよう、子どもの状況の奥にかくれているものは何かとらえることのできるよう関わっていきたいと思いました」等、様々なご感想をいただきました。

次年度も開催予定ですので、みなさんのご参加をお待ちしております。

発達相談・学びサポート室へのお申込み方法

子どもの発達・教育相談を行っています。あらかじめ電話でお申込みください。

【補足】附属学校園へ所属されている方は、学びサポート室での対応となります。受付窓口は同じですので、「附属学校へ所属しています」と申込時にお伝えください。

電話番号　075-644-8354　（月曜～金曜 10 時～15 時　※12 時 30 分～13 時 15 分除く）

※祝祭日、夏季休業・冬季休業中は除く

特別支援教育臨床実践拠点・スタッフ

専任教員（センター長）教授：相澤雅文

兼任教員　教授：田爪宏二（教育学科）、牛山道雄（発達障害学科）

准教授：佐藤美幸、丸山啓史（以上　発達障害学科）

相談補佐員：松中修子（月）、福井めぐみ（火・水・金）、西村弘子（木）

◆教育臨床心理実践拠点の主要な取り組み

附属学校スクールカウンセラーより

～附属高等学校～

附属高校で勤務してもうすぐ5年が経とうとしています。年30回勤務ですので試験期間を除くとほぼ毎週勤務しています。附属高校の生徒は素直で礼儀正しくまっすぐ育ってきた子が多いという印象です。京都小中・桃山中・高校からの外部生が混ざって高校生活がスタートするというのが特徴的で、同じ中学出身の子同士で集まり新しい友達を作るのに時間がかかったり幼小中時代からの人間関係を長く引きずったりする子もいます。来室する生徒の相談内容としては友人関係や学業、自分の性格や恋愛・進路など多岐に渡りますが、継続して話をする中で自分の中のモヤモヤを言葉にできるようになったり、気になることから適度に距離がとれるようになったりして笑顔が多くみられるようになると嬉しくなります。今年度は初めて1年生の保護者会で思春期の子どもの心理について講演させていただきました。保護者の相談は少ないですが教育熱心なご家庭が多く、思春期の子どもとの距離感について困っておられる方が多いように感じました。今後も実施できたらと思っています。

自分から相談予約をしに来る生徒の中にはこれまでにもカウンセリングを受けたことがあるという子がときどきいます。友達・家族・先生だけでなくＳＣも相談相手の選択肢の一つになってきていることを実感します。幼稚園・小学校・中学校のＳＣの方々が種を撒いてくださりそれが高校でも受け継がれ、さらに卒業後の人生においても“困った時には助けを求める”ということが気軽にできるようになってくれたらと願っています。（附属高校SC　中井裕子）

附属学校園の心理相談に関するお知らせ

附属学校園の幼児・児童・生徒およびその保護者の方を対象に、個人・家族・学校などの悩みや困った問題について**心理的援助**を行っています。どうぞお気軽にご連絡ください。（発達相談については学びサポート室へのお申込みとなります）

相談申し込み方法

予約制となっておりますので、あらかじめ電話でお申し込みください。

電話番号　075-644-8354

（月曜～金曜午前10時～午後3時　※午後0時30分～1時15分除く）

※祝祭日、夏季休業・冬季休業中は除く

※新規お申し込みは火曜から金曜の間に受付を行います。

◎「発達相談」と共通の受付電話番号となっていますので、最初に**「心理相談を希望」**とお伝えください。

◎「心理相談」は京都教育大学附属学校園の関係者以外のご相談はお受けできませんのでご了承ください。

教育臨床心理実践拠点・スタッフ

兼任教員　教授：森孝宏

准教授：西村佐彩子